

▶平成20年11月16日(日)

つれづれなるまゝに、日ぐらし硯に向ひて、心に移り行くよしなしごとを、そこはかたなく書きつくれば、怪しうこそ物狂ほしけれ。

鎌倉時代版ブログです。

それにつけても、現代日本のみなさん、

よく「よしなしごと」を「そこはかたなく」書いていますね。

「つれづれなる」人、けっこういるのです。

人のことは言えませんが…。(*^_^*)Hahaha...

平和です。

核？

どこの国の話？

なんていう人、けっこういるのでしょうかね。

え？

おまえだけだ？

失礼しました…。(-_-;)Shynn!

鎌倉時代も、源平の覇権争奪戦が終了し、社会が平和だったのでしょ。

だから、当時の人々は、「日ぐらし」な～にもすることがない。

吉田兼好のように、ブログでも書くしかなかったのでしょうか。

平和ですと文学が生まれます。

徒然草，冒頭の解釈です。

つれづれなるまゝに〔**退屈なので**〕、日ぐらし〔**終日**〕硯に向ひて、心に移り行くよしなしごと〔**つまらぬ事、らちもない事**〕を、そこはかたなく〔**とりとめもなく**〕書きつくれば、怪しうこそ物狂ほしけれ〔**妙に變な気持がする**〕。

*注釈をつけると、少々しらけます。(^_^;)

原文の持つ言葉のインパクトが削がれるからでしょうか。

でも、まあ、いいか！

ほし

「ほし」と書いてワープロが変換してくれないのも...

しらけます。

読んでいる人は、何のことがわかりません。

もう一度...「ほし」！

今度は変換しました。

こんなことは、どうでもいいのですが...

宿題をせねばなりません。数学の問題でした。

原価 300 円の品物に原価の 3 割の利益を見込んで定価をつけた。
大売り出しの日に、定価の $\frac{1}{3}$ 割だけ値引きして売ったところ、利益は
51 円であった。 の値を求めなさい。ただし、はじめに見込んだ利益は
原価の 10 割以下とする。

割の一般的処理の話です。

割はもとにする量の $\times \frac{1}{10}$ を表します。

これ以上でも、これ以下でもありません。

だから、これが **割の一般** です。

どのように使うのか。

例えば、100 円の 3 割は、 $100 \text{円} \times 3 \times \frac{1}{10} = 100 \text{円} \times \frac{3}{10}$
この部分が割の一般を表す

3 割をいきなり $\frac{3}{10}$ としても 0.3 としても、割の一般は理解できません。

いずれも機械的な丸暗記にしかすぎません。（後で証明します）

一般的理解が威力を発揮するのは、割が小数，分数，文字になるときです。

たとえば、100 円の 0.02 割は、 $100 \text{円} \times 0.02 \times \frac{1}{10}$
 $= 100 \text{円} \times \frac{2}{100} \times \frac{1}{10}$
 $= \frac{1}{5} \text{円}$

上の問題の例でいえば、割は $\times \frac{1}{10} = \frac{\quad}{10}$

$\frac{3}{3}$ 割は $\frac{3}{3} \times \frac{1}{10} = \frac{3}{30}$

すなわち、割を $\times \frac{1}{10}$ に置きかえることで...

数値として計算に利用できるようになります。

操作方法が 1 つだから、だれでも簡単に操作できます。

しかも、1 つであるということは、迷わないということです。

だから、必ず正解します。

で、問題ですが...

「売価 - 原価 = 利益」というこれも商品売買の一般的知識を使って立式します。

一般は 1 つですから、迷わず安心して使っていいのです。

未知数を決める。 原価の 割が利益であるとする。

方程式を立てる。

売値

- 原価 = 利益

$$\boxed{300 \times \left(1 + \frac{10}{100}\right) \times \left(1 - \frac{30}{100}\right) - 300 = 51}$$

定価

方程式を解く。

これを解いて、 $x = 390$

はじめに見込んだ利益は、原価の10割以下とするから、 $x = 390$

解を吟味する。

原価300円の品物に原価の3割の利益を見込んで定価をつけます。

$$300 \text{円} \times (1 + 0.3) = 390 \text{円}$$

定価390円の $\frac{3}{10}$ 割引きは、 $390 \text{円} \times (1 - 0.3) = 273 \text{円}$

これから原価300円を引いて73円の利益。

問題に合っています。

* 解の吟味は、このように具体的に指導する必要があります。
式に代入して合ったからOK, などの矛盾は先日紹介した通りです。

答を求める。

答 = 3

ここで扱った割の処理は

すべての割合の問題で使える最も応用力のある一般的知識です。

応用力というのは...

難しい問題を解くことによって身に付くものではありません。

また、練習量を多くしたからといって身に付くものでもありません。

200題、300題練習しても、それが個別技術を使って解くのであれば、やはり301題にまちがわないという保証はどこにもありません。

応用力というのは...

一般的知識を習得することによってのみ手に入れることができるものです。

例えば、3題ほどを一般的解法で解き、それを覚えるならば、それ以降はその解法で解ける問題にはすべて正解できる知識として習得されます。

このことは、「一般」を教えることの重要性を教えてください。

上の割の応用問題に即して言えば...

1割は0.1で、2割は0.2を表すと「位取り表」を見せられて教えられても

じゃあ、 $\frac{1}{3}$ 割は？

と問われると、咄嗟には出てきません。

「個別知識」を教えられても...

その知識には、限界があるということです。

このことは、知的活動のあらゆる場面と言える「一般」法則です。

この「一般」をどのように教えるか...

このテーマで数冊の教育書が書けそうです。

いくつかのテーマを選んで、少しずつ検討していくことにしましょう。

もちろん、読者諸氏が教室で実際に実践してみることができるような具体的な教材を示しながらです...!

一般の啓蒙書のように理論だけを振り回してみても、

読む人にとっては、「ああ、そうですか」で終わってしまう世界になります。

理論は、教室で使えないなら「絵に描いたもち」にしかすぎません。

この「もち」、巷にあふれています。

少々、食傷ぎみですナ!

教育理論には、**それを教室で実践できる教材の裏付け**が必ず必要なのです。

「いいこと」だけなら、だれにも何でも書けますから! (*^_^*)Shuwacchi!

ところで、使ってみてふと思ったのですが...

「必ず必要」という日本語は正しいのでしょうか?

必要というのは「必ず要る」という意味だから

「必ず必要」は、「必ず必ず要る」という意味になりそうです。

同語反復(tautology)です。

強めるとしても、改めて解釈すると、少し変な気もしますが...

きょうは、「一般と個別」という重いテーマを扱ってしまいました。

「一般と個別」は、本来は哲学の概念です。

教育学でも、教材構成論を含め、教室での実践を方向付ける重要な概念です。

このテーマ、少し続きそうです。

個別知識、生徒の個性的発想、我流、一般的知識、独創性等々の概念が相互作用します。果てしない概念の網に捕らわれそうです。

網に捕らわれると蜘蛛に食べられます。

...?

蜘蛛もむずかしい漢字ですね、

書けません。

「ワープロを使っていると漢字が書けなくなる」というのは本当です...

が、それがどうしたというのでしょうか!

書けなくとも、こうして「蜘蛛」なんて文字、ちゃ~んと書いてます。

「憂鬱」とか、「魑魅魍魎」など、すごい漢字もちゃ~んと書けます。

なんか、ワープロを使いこなせない人の「ねたみ」のような...(*^_^*)Shuwacchi!

...

「一般と個別」をめぐる相互作用する諸概念は...

ひとつづつ整理しながら考えないと「我流」に落ちてしまいそうです。

我流は独善であり、創造性とはちがいます。

この辺の混乱が、似非創造性教育の底辺にあります。

具体例で詳論しなければならない現代日本の教育問題のひとつです...

...が、

教育実践における「一般と個別」の諸問題を明らかにすることは
教授活動の本質を探る研究でもあります。

本質は、避けて通ってははいけません。

ものの本当の姿が見えなくなります。

本質を避けることは、我流と独善の温床になります。

だから、この本質の研究は、避けて通れない教育する者の義務です。

この義務、避けて通ってるセンス！

いませんね？

では、次回から、わたしも義務はたしませう。

神の声：「せう？」

はい、徒然草風に”締め”ました。

じゃんじゃん！

商品売買の教材，生徒に学習させてみて下さい。

何回でも，繰り返し学習させる必要のある「味のある」教材です。

次のように指導します。（ 演習 の学習のしかた ）

ガイドのついている教材を使い，ガイドに沿って問題を解かせます。

がきちんとできた後で，ガイドのついていない問題だけの教材を使い，
問題を解かせます。

【注意】 の学習をやらないと，解けるようにはなりません。

「できたつもり」で学習を終えてしまう生徒がです。

生徒さんに実際に学習させてみて，何か指導上で問題点がでてきたらコメント
いただけるとうれしいのですが...！

教材のさらなる改良ができます。

◀ 【 まちがいをさせない教材 】 ▶

インターネットを使った通信教育用教材(生徒の自学自習用教材)の紹介です

2 次方程式
2 5

6 割合に関する問題
商品売買の問題

クリック